

スケッチ・ダイアログレポート

2021年11月

さくり

資料3-6

# 新型コロナウイルス

## をめぐる

## 市民的論点

対話を通じた

問題の素描

放送大学教授 奈良由美子／大阪大学教授 平川秀幸／北海道大学客員准教授 吉田省子／科学コミュニケーション研究所（さくり）

企画支援：JST-RISTEX研究開発プロジェクト「現代メディア空間におけるELSI構築と専門知の介入」（代表：田中幹人）

・新型コロナワクチンをめぐる政策に資するため、2021年1月から10月までの間に3回の市民対話を実施した。

・これまでの市民対話は、一般論として次のような点に困難が認められ、政策過程で利用することが難しかった。

- ▼ 政策に反映できるタイミングで結果を得られるスピード感
- ▼ 目的、手法、解釈の明確さと、参照情報としての正当性、利便性
- ▼ 実施コストなど

・本レポートに掲載した3つの対話は、内容としても、タイミングとしても、政策過程で利用可能な参照情報を生み出すために、スピードと精度、実施コストに配慮してデザインした。

・政策担当者は、日頃からさまざまな人々と対話を行っており、ことさら市民対話を実施する必要がないようにも思えるが、リソースに限界がある中でコミュニケーションを進めるうちに、知らず知らず対話の相手や対象に偏り、濃淡が生まれてしまうことに留意が必要である（コミュニケーションのクラスター化）。

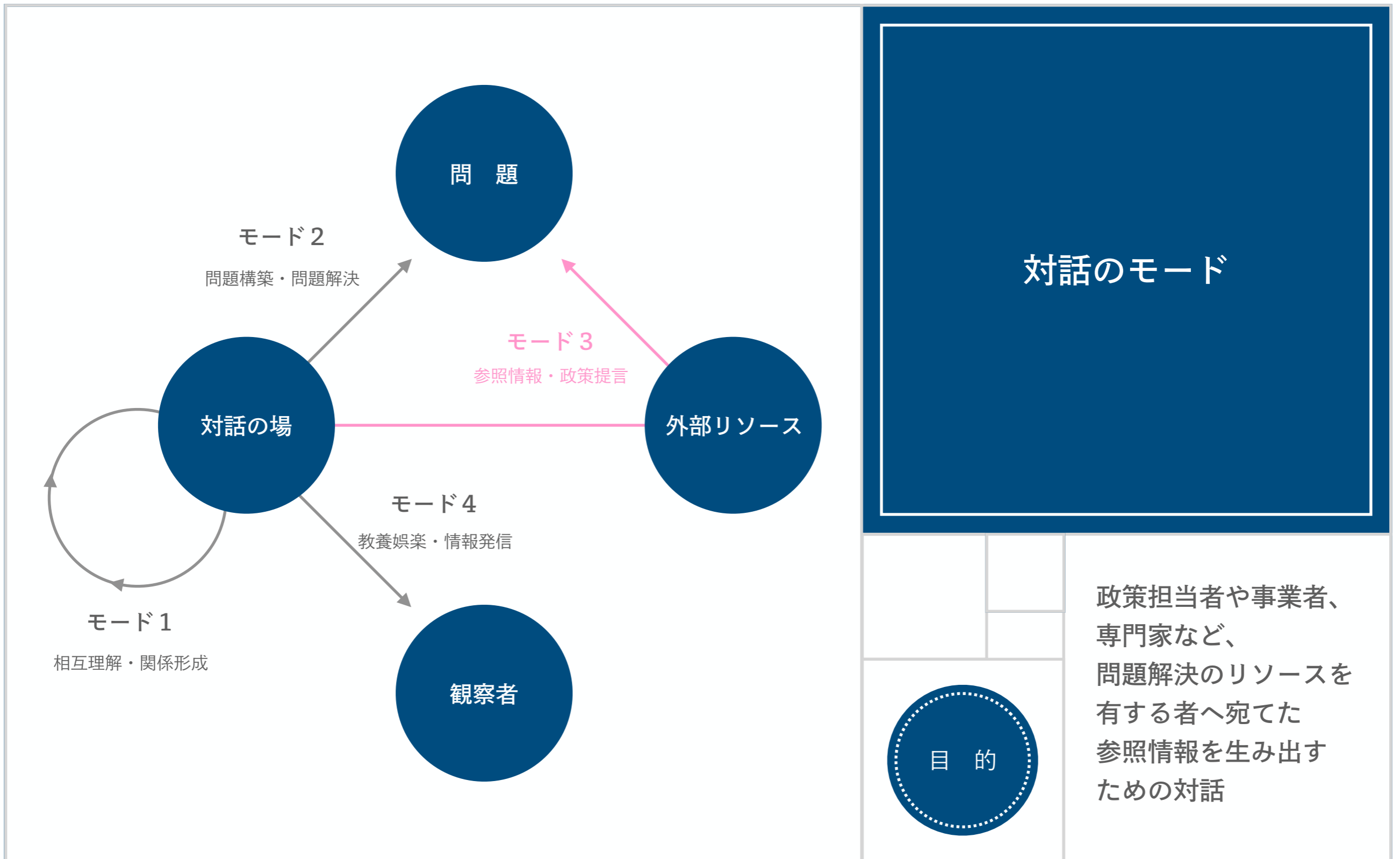
・私的な利害調整と異なり、公共的な問題では、問題の構築、ステークホルダーの特定、解の探索、専門知の選択、政策の実施といったさまざまな場面で、コミュニケーションのクラスター化が問題となるため、あらためて市民の考えや思いを広く把握し、政策過程で利用可能な参照情報を生み出すべく、意識的にデザインされた対話が重要である。

・本レポートは、そのような対話のはじめの一步として、新型コロナワクチンをめぐる問題のいくつかを素描するものである。

## 新型コロナワクチン をめぐる問題の素描

趣 旨

市民の対話を通じて  
問題を素描し、  
問題解決に役立つ  
参照情報を生み出す



対話には様々な目的に応じた手法があるが、ここでは対話の場に視座を置き、次の4つのモードとして整理した。本レポートに記載された対話は、主としてモード3の対話を意図している。

- モード1 相互理解・関係形成 対話によって生まれた成果を、対話の場で分かち合い、参加者間の相互理解、創造的な関係を形成することを目的とする。
- モード2 問題構築・問題解決 対話によって、問題を構築し、解決に必要なリソースを持ち寄って、自律的な問題の解決を目指す。
- モード3 参照情報・政策提言 対話によって生まれた成果を、政策担当者、意思決定者など、問題解決に必要なリソースを有する者へ届け、対話の場の外側で問題の解決を図る。
- モード4 教養娯楽・情報発信 対話の場を第三者に対して開き、観察者に教養、娯楽を提供し、情報を共有することを目的とする。

## 対話1 新型コロナワクチンについて\*

日時 2021年1月30日 土曜日 10時00分～12時00分  
主催 「新型コロナウイルス感染症をめぐるリスクコミュニケーションの質的研究」グループ  
(グループリーダー：放送大学教授 奈良由美子)  
協力 科学コミュニケーション研究所(さくり)  
実施者 奈良由美子(放送大学)、田原敬一郎(さくり)、白根純人(さくり)  
目的 対話を通じて、新型コロナウイルスのワクチンに関する行政の取り組みへの期待、懸念、  
疑問点を明らかにする。  
参加者 一般市民(公募) 6名  
参加方法 Zoomミーティング  
謝金 3000円(税込)

## 対話2 新型コロナワクチンに対する意識変容について

日時 2021年9月18日 土曜日 14時00分～15時30分  
主催 科学コミュニケーション研究所(さくり)  
実施者 奈良由美子(放送大学)、吉田省子(北海道大学)、田原敬一郎(さくり)、白根純人(さくり)  
目的 対話を通じて、新型コロナワクチンに対する意識変容の理由を明らかにする。  
参加者 新型コロナワクチンについて、当初積極的でなかったが、受容する方向に  
意識変容された方(依頼) 3名  
参加方法 Zoomミーティング  
謝金 4500円(税込)

## 対話3 新型コロナウイルス感染症に関するワクチン・検査パッケージ について

日時 2021年10月3日 日曜日 13時30分～16時30分  
主催 科学コミュニケーション研究所(さくり)  
実施者 平川秀幸(大阪大学)、吉田省子(北海道大学)、田原敬一郎(さくり)、白根純人(さくり)  
目的 対話を通じて、新型コロナウイルス感染症に関するワクチン・検査パッケージについて  
期待、懸念、疑問点を明らかにする。  
参加者 一般市民(公募) 9名  
参加方法 Zoomミーティング  
謝金 3600円(税込)

# 新型コロナワクチン をめぐる3つの対話



- 対話1 ワクチン全般
- 対話2 意識変容
- 対話3 ワクチン・検査  
パッケージ

\*厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の倫理的法的社会的課(ELSI)に関する研究(20HA2011)の一環として実施した。

## ■ 基本形

- 1 自己紹介
- 2 テーマに関する情報共有
- 3 テーマに関する事前評価（4段階評価（評価できる、どちらかという評価できる、どちらかという評価できない、評価できない）と理由）
- 4 チャットワークと対話  
テーマに関する以下の点をチャットボックスに3つ記載した後、順番に発表し、全体で対話する。
  - 4-1 評価できる点
  - 4-2 評価できない点
  - 4-3 よくわからない点（疑問点）
- 5 インターネット調査  
一人1つの調査項目を選定し、30分間、個別にインターネット調査を実施する
- 6 調査結果の共有と対話
- 7 テーマに関する事後評価（方法は、事前評価と同様。）

■ 対話1 2、5、6はなし。

■ 対話2 4-1、4-2は、評価できる点、できない点に代えて、ワクチン接種に当初積極的でなかった理由、ワクチンを受け入れるようになった理由とした。  
2、3、5、6、7はなし。

■ 対話3 5、6はなし。7について、条件を変えて、2回実施した。

## 対話のプログラム

デザイン

聴くことと話すことを丁寧に切り分け、それを積み重ねることで協働的に問題の構築を図る

3つの対話はすべて、オンライン会議システムZoomを使ったバーチャル空間で実施した。

バーチャル空間は、フィジカル空間と異なる特質を持ち、フィジカル空間での対話手法をそのまま使い回すことができないが、オペレーションやファシリテーションを工夫することで、フィジカル空間の不完全な模倣を超えた、創造的な対話を生み出すことができる。

## ・イベントの概要

日時 2021年1月30日 土曜日 10時00分～12時00分

主催 「新型コロナウイルス感染症をめぐるリスクコミュニケーションの質的研究」  
グループ（グリープリーダー：放送大学教授 奈良由美子）

協力 科学コミュニケーション研究所（さくり）

実施者 奈良由美子（放送大学）、田原敬一郎（さくり）、白根純人（さくり）

目的 対話を通じて、新型コロナウイルスのワクチンに関する行政の取り組みへの  
期待、懸念、疑問点を明らかにする。

参加者 一般市民（公募） 6名

参加方法 Zoomミーティング

謝金 3000円（税込）

## ・結果の概要

- 1 日本国内でワクチン接種が始まる前の2021年1月30日に実施したものであるが、対話の結果として得られたワクチンをめぐる市民的論点の構造は、レポート執筆時点（2021年11月）においても、違和感のない一般性を持っている。
- 2 新型コロナワクチンをめぐる市民的論点の構造は、情報共有、自己決定権、準備、接種、副反応、感染対策から構成されている。
- 3 これらの論点のなかには、準備や接種のように首尾よく実施されたものと、課題の残るものがあり、精査と適切な対応が求められる。
- 4 市民の関心は、ワクチンの有効性だけでなく、プロセスの透明性、社会的な公平性にも及んでいることに留意が必要である。
- 5 情報共有については、権威主義的に正解を示してほしいという意見と、政府の見解と異なるものも含めて情報を得た上で自ら判断したいという意見を両極として様々なバリエーションが存在する。
- 6 mRNAワクチンの長期的なリスクについての情報共有は不足しており、新技術をめぐるコミュニケーションのあり方として、重要な検討課題である。
- 7 変異株の出現やブースター接種、国内でのワクチン開発などの状況変化を踏まえた論点は含まれていないため、新たな対話を行う必要が生じている。

# 対話 1

## 新型コロナワクチン について



## 市民的論点

# 新型コロナウイルスに関する行政の取り組みへの評価

	対話前の評価	対話後の評価
1 評価できる	0 人	0 人
2 どちらかという評価できる	5 人	4 人
3 どちらかという評価できない	1 人	2 人
4 評価できない	0 人	0 人
対話前後の変化	2→3：1人	
ポジティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現段階ではワクチンが唯一の現状からの打開策だと思うので、未知のリスクもあると思いますが、それを差し引いても早くワクチンが接種できる状態になって欲しい。</li> <li>・ 各国の状況を鑑みても、よく足並みをそろえていると思うから。</li> <li>・ 何よりも早く行って欲しいと思っているから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状ワクチンの他に有効な手段が無いと思うので。</li> <li>・ 問題は山積みだが、その中でもしっかりと対応している方だと思うから。</li> <li>・ 減点法で考えると問題はたくさんあるが健闘してる方ではないかと思います。</li> <li>・ まずワクチンを確保し接種を行う見通しが出来ている事を評価したい。今までのお話から、問題点はきちんとした説明やアナウンスが統一的にされていない点が一番の問題かと思います。</li> </ul>
ネガティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副作用が心配できちんとした説明が市民に届いておらず、不安である。</li> <li>・ また、医療者の友人も副作用が心配なので、打とうか迷っているということを知るので、（接種は任意のようです）不安です。家族には打たせたくないなと思います。</li> <li>・ あとどこで接種できるのかまだうちの市ではきまってないようです。</li> <li>・ 最近TVをあまりみず、youtubeばかりなので、あまり、情報を自らとりにいかないといけない。回覧板などにはまだあまり詳しく記載ないようです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数を確保出来ました！のアピールだけが感じられる。何かあれば救済しますみたいな恐ろしいワクチンだったとは。でも現状ならこれが精一杯なのかなあと思う。</li> <li>・ きちんと情報が伝わっていない為、いつも国や自治体の取り組みについて、きちんと情報が市民に伝わることは大変難しく、ほとんどきちんと正確に伝わらないが、やはり今の段階ではコロナワクチンに対しては副作用が怖いので個人的にはFAや自分は打ちたくないが、風潮的に打たないと悪くなるから、多分うってしまうことであろう。</li> <li>・ 本当に安全性が確保されてから打ちたいが、そんな臨床実験する時間がないのであろうから、仕方がないのか、そもそもコロナウイルスって、インフルエンザと変わらないという先生もいるし、本当のことがよくわからないが風潮的にワクチンは打ちたくないけど、みんな打つんだろうと思う。</li> </ul>
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水面下で手を回して確保をしてもらっていますが、実際日本にはいつ届くのか？</li> </ul>	

# 新型コロナウイルスをめぐると市民的論点 1 / 3

論 点	よいと思うこと、期待されること	よくないと思うこと、心配されること	よくわからないこと、疑問に思うこと
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で働く看護師、介護士さんたちからは、ワクチンが出てきてようやく光、が見えてきたという声が聞かれた</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な視点からの説明がほしい。</li> </ul>
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状においてワクチンの情報に国民の期待が一番集まっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が共有されているという実感がない点</li> <li>・ワクチンについての説明が十分ではない点</li> <li>・ワクチンについての明確な説明をもっと行うべき</li> <li>・市の広報にワクチンの記載がまだない</li> <li>・あまり詳しい内容が市のHPを見ても書いていない。詳しいことがまだ市民にまで伝わってきてなく不安がつのってしまう広報の仕方がよくない</li> <li>・厚生労働省のHPみてもなんだかページが昔っぽくてわかりにくい</li> <li>→市のホームページをみてもよくわからない。A4で1枚など簡潔にわかりやすく、高齢者などもみられる媒体で発信したらどうか。</li> <li>・TVや報道、媒体での情報がやや断片的。</li> <li>・国、自治体のトップ（責任者）の直接の説明がなされていない。</li> <li>・ワクチンの接種の具体的な方法が国、自治体からの説明が少ない。→メディアでの報道はいっぱいあるが、説明が散漫、断片的、国、自治体の直接的説明が必要。たとえば、若い世代はネットでよいが、高齢者などのネットがない環境では、時間を決めてNHKなどで毎日放送するといった工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何故、情報を積極的に出していないのか</li> <li>・よい点、悪い点の説明を高齢者が理解出来ているのか？</li> <li>・情報を集約したプラットフォームが必要</li> <li>・短い時間で、ぱんと入ってくる、広告のようにポップアップで表示される、プッシュ型の発信が必要</li> <li>・情報番組で垂れ流された情報が拡散するのは問題。</li> <li>・ワクチンと薬と間違えている人もいます。</li> <li>・初歩的なことから説明してほしい、高齢者も含めて。</li> <li>・ワクチンの長期的な効果について知りたい。</li> </ul>
リテラシー			<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人個人でリテラシーを上げることも必要。</li> </ul>
コミュニケーション			<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場の声をどこに届けてよいのかわからないという声もある。</li> </ul>
自己決定権			<ul style="list-style-type: none"> <li>・打たないと悪みたいな風評被害。インフルワクチンを接種せずに感染、打たなかったことを職場で批判された事例がある。個人の自由であることをもっと強調すべき。</li> </ul>



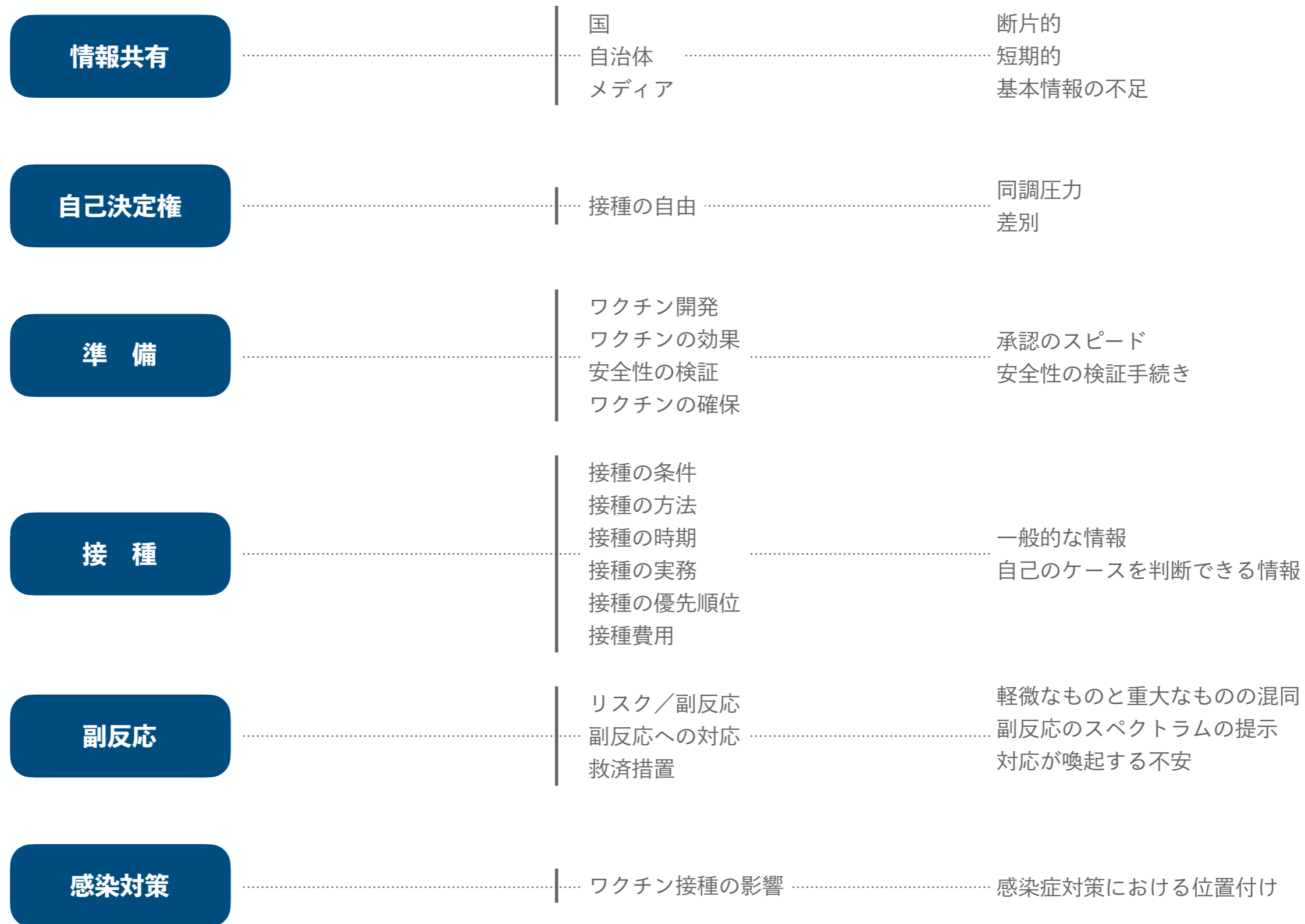
# 新型コロナワクチンをめぐる市民的論点 2 / 3

論 点	よいと思うこと、期待されること	よくないと思うこと、心配されること	よくわからないこと、疑問に思うこと
ワクチン開発		・国産ワクチンの開発	
承認プロセス	・従来の薬事承認のスピードから考えるととんでもなく早い対応であると思います。		・治験をはじめとする、安全性を検証するプロセス ・治験の募集がありましたが、その結果はきちんと反映されているのか？
ワクチンの効果			・ワクチンの接種によってどの程度発症を防ぐことが出来るのか？ ・毎年受けなければならないのか？
ワクチンの確保	・全国民に行きわたるように数量の確保が出来ている ・数の確保 ・全国民分のワクチンの確保		
接種の条件			・アレルギーのある人間は受けても問題無いのか？ ・ワクチンの「のみあわせ」「食べ合わせ」
接種の方法			・何回受ければよいのか？ ・ワクチン接種の方法
接種の時期			・結局のところ自分はいつごろ受けることが出来るの
接種の実務	・会場を使用して実際に人を動かしてシュミレーションを行うなど、ワクチン接種の対応において綿密な準備がなされている ・より実践に近い形で接種のシュミレーションを行っている点 ・摂取場所でのシュミレーション	・保存が難しいワクチンの管理がそれぞれの接種場所において問題無いのか？ ・ワクチンの保存について	・住民票と現住所が違う場合の対応
接種の優先順位	・接種優先順位の明確化 ・接種優先順位 ・医療従事者や高齢者という感染リスクが高い人から打てるのは良い	・臨床現場にいるみんなは不安があるうちはコロナワクチンは打ちたくないし、むしろリスクが高い高齢者にとって平気なんかねという不安を聞いた。 ・医療者、高齢者の接種順位が高いことは、問題もある。	
接種費用	・公費補助がある点は良い		

# 新型コロナウイルスワクチンをめぐる市民的論点 3 / 3

論 点	よいと思うこと、期待されること	よくないと思うこと、心配されること	よくわからないこと、疑問に思うこと
リスク／副反応		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクについてまだまだ不安要素が残っているという点</li> <li>・安全性 世界でどの国がどれくらい利用しているか、どこ の会社のものをどれくらい、副反応の人数や内容、基礎疾患 や年齢などの細かい情報。自分や身近な人に当てはめて考え られる情報。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンの副作用</li> <li>・肺炎球菌のワクチンに関する副作用の経験があり、おばあ ちゃんは打たないと言っている</li> <li>・他に常用している薬がある場合、副作用があるかどうかわ からない</li> </ul>
救済措置			<ul style="list-style-type: none"> <li>・救済措置の話を知るとそんなに危ないものかと不安にな る。</li> </ul>
副反応への対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場のみんなは、ただでさえ、なれないコロナ対策で疲弊 しているがワクチン接種が始まったらさらに業務が多忙にな るのではと不安がっていた</li> <li>→医療現場の話を知り、業務が忙しすぎて大変というこ と、ワクチンも副作用が怖くその対応で追われるのではない か、という懸念がある。</li> </ul>	
自治体の対応			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の対応がどうなっているかが全くわからない</li> <li>・自治体ごとの準備状況をわかりやすく</li> <li>・ワクチン接種の方法は自治体で異なるのかどうかわ からない</li> </ul>
感染対策			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンを打ったから大丈夫だと思ってしまう人もいるの では。</li> <li>・ワクチン政策が感染を広げてしまうこともあるのでは。</li> </ul>

# 新型コロナワクチンをめぐる市民的論点の構造



## ・イベントの概要

日時 2021年9月18日 土曜日 14時00分～15時30分

主催 科学コミュニケーション研究所（さくり）

実施者 奈良由美子（放送大学）、吉田省子（北海道大学）、田原敬一郎（さくり）、  
白根純人（さくり）

目的 対話を通じて、新型コロナワクチンに対する意識変容の理由を明らかにする。

参加者 新型コロナワクチンの接種について、当初積極的でなかったが、受容する方向  
に意識変容された方（依頼） 3名

参加方法 Zoomミーティング

謝金 4500円（税込）

## ・結果の概要

- 1 新型コロナワクチンの接種について、当初積極的でなかったが、受容する方向に意識変容した理由として強調されたのは、感染状況、社会状況が変化して、接種するベネフィットが接種しないリスクを上回ったという判断である。
- 2 具体的なベネフィットとしては、デルタ株の流行により感染者数、重症者数が増えたことや居住地域内、同年代の感染者数が増えたことによる自己の感染への不安、医療体制の逼迫による感染時の不安、諸外国のワクチンパスポート政策により生じる不便さをワクチン接種によって回避できることを挙げている。
- 3 当初、リスクとして考えていた、ワクチンの安全性に関する懸念、副反応については、先行する諸外国の例などから、判断に与えるネガティブな影響は相対的に小さくなっている。
- 4 長期的な影響に関する情報は増えていないにもかかわらず、リスク評価の小さくなった参加者がいるが、ワクチンを受容することで生じる認知的不協和を解消するための意識変容であると考えられる。
- 5 意識変容のきっかけとして申告されたのは、メディアを通じて得られた情報よりも、ローカルなコミュニケーションを通じて生じた協同的な作用であった。
- 6 このようなコミュニケーションのネットワークに属さない人、情報と判断に偏りがある社会小集団に属する人に対しては、この対話に見られた意識変容は生じにくいと考えられるため、適切な対応が求められる。

## 対話2

## 新型コロナワクチン

## に対する

## 意識変容について

概 要

市民的論点

# 新型コロナワクチンに対する意識に影響を与える市民的論点

論 点	当初、接種に積極的でなかった理由	ワクチンを受け入れるようになった理由
リスクとベネフィット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地ではそこまで感染者が多くなく、あまりベネフィットはないと思った。</li> <li>・職業柄（在宅）、打たなくてもいいとも思った。</li> <li>・ステイホームしまくったら気合いで乗り切れるだろうと思える状況だったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デルタ株の感染力が強い。</li> <li>・感染爆発と重症化するようになった。（デルタ株）・自分の年代でも重症する人が目立ってきた</li> <li>・その中で50代が増えてきた</li> <li>・居住地でも感染者が増えてきた</li> <li>・とにかく目先のリスクありきです</li> </ul>
効果の実証		<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的データ（イスラエル、アメリカなど）を見ると、少なくとも半年は効果があり、それ以降も重症化が防げる（が、長期的には不明で不安）</li> </ul>
副反応への懸念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常より副反応が強い、死者（因果関係は不明というものの）が他のワクチンより格段に多い。</li> <li>・打った直後に死ぬのではないか？</li> <li>・先に接種した父の副反応</li> <li>・自身の基礎疾患があること</li> </ul>	
新技術への懸念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・mRNAワクチンという新技術であること</li> </ul>	
承認手続きの妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急承認だったということ。</li> </ul>	
長期的影響への懸念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な影響もわからない。</li> <li>・数年後の副反応が怖い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な体への不利益については、自分に関してはもう年だからそんなに心配しなくてもいい。</li> </ul>
外国産製品への懸念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産が出るまで様子見。欧米の人を基準に決めていて日本人に合うかどうか不安。</li> </ul>	
治療薬への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療薬がそのうち開発されるだろうと思った。健康な体に異物を入れるより、かかったときに治療薬を投薬されるほうが納得がいく。</li> </ul>	
医療体制の逼迫		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナになって在宅治療を完璧にする自信がない。</li> <li>・大阪では自宅待機が増え続け、毎日のように重症までほったらかされるというようなニュースを見た</li> </ul>
ワクチンパスポート		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種が各国進みだし、ワクチンパスポートの件も考えなくてはならなくなった（身内に外国人がおり、緊急時の駆けつけが不安。）</li> </ul>
家族との対話		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人に相談（感染時の症状と副反応の比較。一番身近な方に心配をかけたくない）</li> </ul>

# 新型コロナワクチンをめぐるローカルなコミュニケーション

## インタビュー対象者のワクチン受容性に ポジティブな影響を与えたコミュニケーション

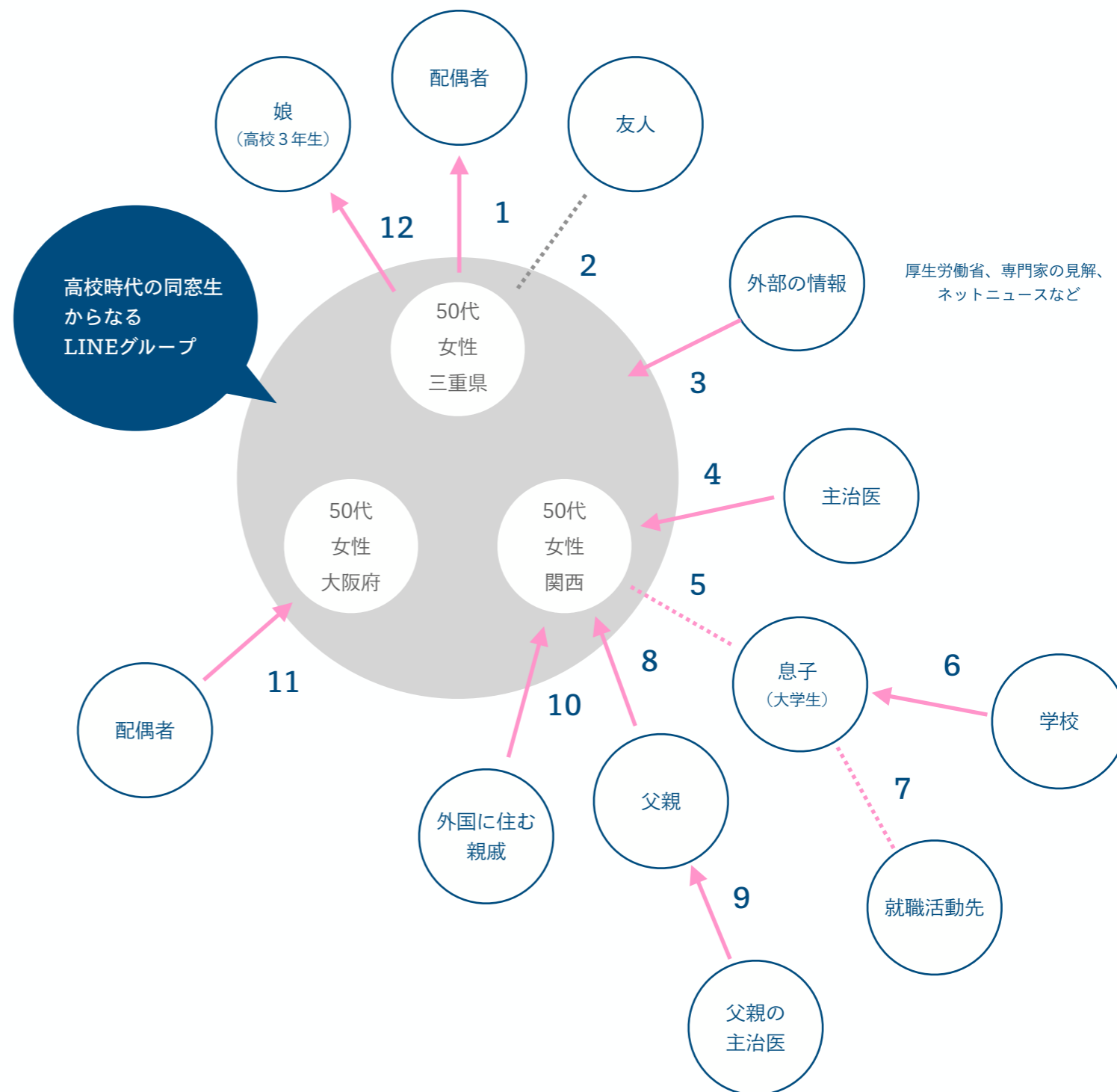
- ・外部の情報 3
- ・主治医の勧め 4
- ・学校からの案内、就職活動に関する懸念により、先んじて接種した息子の存在 5-7
- ・主治医から勧められて接種した父親の存在 8-9
- ・訪問する可能性がある外国在住の親戚の存在 10
- ・普段は意見を言わない配偶者からの勧め 11

## インタビュー対象者が、他者のワクチン受容性に ポジティブな影響を与えたコミュニケーション

- ・ワクチンに懐疑的な配偶者に対する接種の勧め 1
- ・保護者の立場から娘への勧め 12 (これまで、子宮頸がんワクチンの接種はさせない、インフルエンザワクチンは状況に応じて接種させるといった判断を行ってきたが、新型コロナワクチンについてはリスクとベネフィットを比較衡量して勧めることとした。)

## ワクチンをめぐる人間関係の緊張と緩和

- ・インタビュー対象者がワクチンに対してネガティブなときは、一部の友人らとの関係がギクシャクしていたが、ワクチン接種後は関係が改善した。(結果として、インタビュー対象者のワクチン受容性にポジティブな影響を与えているが、本人は負の出来事として評価している。) 2



## ・イベントの概要

日時 2021年10月3日 日曜日 13時30分～16時30分

主催 科学コミュニケーション研究所（さくり）

実施者 平川秀幸（大阪大学）、吉田省子（北海道大学）、田原敬一郎（さくり）、  
白根純人（さくり）

目的 対話を通じて、新型コロナウイルス感染症に関するワクチン・検査パッケージについて期待、懸念、疑問点を明らかにする。

参加者 一般市民（公募） 9名

参加方法 Zoomミーティング

謝金 3600円（税込）

## ・結果の概要

- 1 ワクチン・検査パッケージをポジティブに評価する理由：行動制限の緩和、意識のポジティブな変化、経済対策への寄与。
- 2 ワクチン・検査パッケージをネガティブに評価する理由：制度の必要性、運用への不安、行動制限の緩和による感染リスクの増加、私権制限への懸念。
- 3 中心的な論点：ワクチンを接種していない人（しない人、できない人）の不利益、とりわけ検査費用の自己負担。事後評価において、検査費用の公費負担を前提として再評価してもらおうと、ポジティブな評価が劇的に増えた。
- 4 参加者のほとんどはワクチンを接種済みのため、自らの経済的な不利益が論点ではなく、ワクチン接種という個人の自由な判断が前提となる制度において、判断のいかんによって不利益を受けることへの不公平さが問題となっている。
- 5 裏返せば、その点をクリアすると政策の社会的な受容性はかなり高いと考えられる。
- 6 他方で、政策の効果やコスト、私権制限をはじめとする社会科学的論点については、項目として言及はされているが、市民の対話では十分明らかになっていないので、多様な専門家による議論の掘り起こしが必要。
- 7 感染対策と経済・社会活動のバランスを取るための天秤は、自由や公平性という支点、土台に支えられているということ、それが蔑ろにされれば、天秤ごと崩壊してしまうことに留意。

## 対話 3

### 新型コロナウイルス感染症

### に関する

### ワクチン・検査パッケージ

### について

概要

市民的論点

# ワクチン・検査パッケージへの評価

	対話前の評価	対話後の評価	対話後の評価 (検査費用を公費負担する場合)
1 評価できる	0 人	0 人	1 人
2 どちらかという 評価できる	2 人	2 人	5 人
3 どちらかという 評価できない	5.5 人	4.5 人	3 人
4 評価できない	1.5 人	2.5 人	0 人
対話前後の変化		3→4：1人	2→1：1人／3→2：4人／4→2：1人 ／3.5→3：1人／4→3：1人
ポジティブな評価の理由	<p><b>意識のポジティブな変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少しは不安な気持ちが一時的に軽減されるかなと思います。</li> </ul> <p><b>代替案の不在</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他にいい方法がないこともありますが。</li> </ul> <p><b>行動制限の緩和</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で日常生活に近い活動ができそうだから。ただそれによる意識の低下が心配。</li> </ul>	<p><b>意識のポジティブな変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的には不安が軽くなるので評価できる。やっつけてから改善しても良いかも。運用方法を具体的に検討する方が良さそう。</li> <li>・安心感を得る事でストレスの緩和やメンタルの安定</li> </ul> <p><b>行動制限の緩和</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設や病院へのお見舞いがワクチン検査パッケージができることでいけるようになるのであれば良いと思う。あとは旅行など。</li> </ul> <p><b>経済対策への寄与</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済活動を進めるきっかけになるから</li> <li>・経済の活性化（特に飲食店）</li> </ul>	<p><b>公平性の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接種したくてもできない人が毎回PCR検査を受けないといけない場合、毎回出費することは負担が大きいため、公費負担があれば公平に</li> </ul> <p><b>感染リスクの低減</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公費負担することで検査体制は拡充するので、押さえ込みの可能性は高まる</li> <li>・無症状感染者の洗い出し、感染拡大の防止につながる</li> </ul>
ネガティブな評価の理由	<p><b>検査費用の自己負担</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公費を使わないのであれば評価しない</li> <li>・検査費用の公費投入がなく、自己負担となる事が最も評価できない点です。</li> <li>・検査費用に公費を投入しない理由が不明瞭であること</li> <li>・日本のニュースを見ても実際にどうなのか分からないのと韓国のように負担なく気軽に検査やができないことで評価できないと思います。</li> </ul> <p><b>技術実証に対する懸念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術実証例2の大規模イベントで、マスク着用率の把握に関して、そんなリスクが高い事をする必要があるのか？外国でこのような実験して感染者がかなり出たように記憶しています。</li> </ul> <p><b>制度の有効性に関する懸念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン・検査パッケージを取得したところで、新たな変異株との戦いにより、「いたちごっこ」のごとく、なかなか制限緩和に繋がらない気がした為。</li> </ul> <p><b>制度の運用に関する懸念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンの接種がG7加盟国で最も遅れて始まったことなどから実際の運用が可能なのか疑問が多いため</li> </ul> <p><b>ワクチン予約の困難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身がワクチン接種を出来ていない為。ワクチンが足りず、接種予約が出来ない。</li> </ul> <p><b>全体的な印象</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところの自分の知識では評価はあまりできないかな。これからのきたい。</li> </ul>	<p><b>検査費用の自己負担</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公費負担でないところが評価できない。</li> <li>・公費負担でないならわざわざPCR検査してまで出かけるのはよそうとかいう人も多いと思うし、経済活動に支障もあるし、なんせ、自分の意思で受ける医療でないのにお金を仕方なく払い検査するのが不公平</li> <li>・検査費用の公費投入がない</li> </ul> <p><b>ワクチンを接種していない人（しない人、できない人）の不利益</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種出来ない人達に対する差別や不利益</li> <li>・ワクチン接種と検査のバランスや、私権制限と規制緩和の折り合い、どこを取っても中途半端に思える。</li> </ul> <p><b>感染リスクの増加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行の割引制度の時のようなことにコロナが増加の可能性があるため強制あるルールができるまではしない方がいいと思います。</li> <li>・感染予防の意識の低下に繋がる事しか考えられない。これがあるから全て大丈夫のような人が増えて、また感染爆発に繋がらそう。</li> </ul> <p><b>個人情報の保護に関する懸念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報管理</li> </ul> <p><b>制度の運用に関する懸念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運用体制</li> <li>・変異株による無効化や取得し直しを懸念</li> </ul> <p><b>全体的な印象</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ検討課題は山積していると思うから</li> <li>・課題がある為。</li> </ul> <p><b>代替施策の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他に感染拡大やクラスターを避ける方法はないのかよく考える必要もあると思う。</li> <li>・大胆な補償と、検査体制の拡充による押さえ込みが有効なのではないかと思う</li> </ul>	<p><b>感染リスクの増加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自費で負担することで、予防意識の高い人を中心に行動制限を緩和することができる</li> <li>・コロナを気にしない人、飲み会が好きな人などに使いやすい制度に</li> </ul> <p><b>ワクチンを接種していない人（しない人、できない人）の不利益</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公費負担になることでかえってワクチンを接種していない人に対する圧力が強まるのでは</li> </ul> <p><b>私権制限に対する懸念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パッケージの内容は、私権制限を伴うことが多いので、それに対する補償が必要であり、私権制限について国会で議論すべき重さを持った内容である</li> </ul>



# ワクチン・検査パッケージをめぐる市民的論点 1/4

論 点	よいと思うこと、期待されること	よくないと思うこと、心配されること	よくわからないこと、疑問に思うこと
<p>行動制限の緩和</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的大きなイベントががしやすくなる</li> <li>・入院者への見舞いができるようになりそう</li> <li>・Withコロナの中におけるコミュニケーションの改善（久しぶりに友人や家族との交流がしやすくなる）</li> <li>・安心して活動場所にいける</li> <li>・家族の見舞いの際などに県境を越えての移動が安心して可能になる。</li> <li>・入院している人のお見舞いができるようになること</li> <li>・コロナ禍において、息抜きする空間に向く怖さがあるのでスポーツ観戦やライブなどに行けるようになると良い</li> <li>・第三者認証を取得している飲食店や、感染対策をしっかり講じているライブハウス・小劇場が技術実証に協力することで人数制限や営業時間の制限を緩和すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサートやイベントに行くのにいちいち検査証明出すとなると足が遠のく</li> </ul>	
<p>ワクチンを接種していない人（しない人、できない人）の不利益</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンを接種せず、検査を受けない人の不当な行動制限に繋がるのでは</li> <li>・受けられない人への対処は？</li> <li>・ワクチンを受けてない人にはやはり不利な制度</li> <li>やはりワクチン打った人と打ってない人で差がつく。差別になる</li> <li>・健康上の理由でワクチンを接種できない方への救済措置が不明瞭な点</li> <li>・ワクチン接種出来ない人達に対する差別や不利益</li> <li>ない人は不利な場面が多いのでは</li> <li>・ワクチンパスポートで差別ができてしまう可能性</li> <li>・採用面接で提示を求められると、就職機会が失われ、不利益が生じる恐れも</li> </ul>	
<p>検査費用の自己負担</p>		<p>やはりお金が個人負担があること 出来れば公費がいいですね。難しいなら一部普負担とか。 公費を使わない方向（好きで検査するわけじゃないし公費が使うべき） 検査費用に公費を投入しない点 検査費用の公費投入がない お金がかかる 個人負担であるため、接種難民も出るのではないかな？</p>	

# ワクチン・検査パッケージをめぐる市民的論点 2 / 4

論 点	よいと思うこと、期待されること	よくないと思うこと、心配されること	よくわからないこと、疑問に思うこと
適用範囲の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に関して除外の方向</li> <li>・スーパーとか行くときに簡単な検査をしないところもいいと思います</li> <li>・ワクチン・検査パッケージの適用から修学旅行や入学試験や選挙・投票、小中学校の対面授業などが除外されていること</li> <li>・感染対策をしっかり講じているスポーツ、コンサートなどのイベントがワクチン・検査パッケージの対象になっていること</li> <li>・深刻な私権の制限が除外されていること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナワクチンの接種証明の提示を求めた場合は罰金となる国もある中、はたして活用出来るシーンはあるのか</li> </ul>
意識の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長引く外出自粛によるストレスの軽減</li> <li>・フラストレーションの解消</li> <li>・目標や楽しみに向かって努力できる</li> <li>・どうしても必要な公共の場所への安心感が得られる</li> </ul>		
感染リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染が抑えやすくなる</li> <li>・2次感染が防げる</li> <li>・感染リスクの低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言解除されただけでも、以前の生活が戻ってきたと思う一定数があるのに、パッケージを導入する事で更にそれが加速しそうで怖い。</li> <li>・大規模イベント等でのマスク外す方向。あまりにも危険</li> <li>・導入する事での意識の低下</li> <li>・完全にリスクがなくなるわけではないこと</li> <li>・今でもマスクをしない人や子供がいるなかでイベントなど自由になればマスクしない人が増えると思います</li> <li>・人流が増え、変に勘違いをして意識の低下</li> <li>・ワクチンを接種したからマスクをしないという人も見かける</li> </ul>	
経済対策への寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の活性化（特に飲食店）</li> <li>・経済活動が進む</li> <li>・新たなビジネスチャンスを得る人が出てくるとこ</li> </ul>		
ワクチン接種への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンの在庫などの管理が楽になる</li> <li>・いちいち施設やイベントに行くときにPCR検査するのがお金もかかるし嫌なので逆にワクチン接種率が上がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン自体、安全性が未だ不明で死亡事故との因果関係が認められておらず、補償も確立されてないなかで実施</li> <li>・ワクチンを接種してるかどうかが明確なる事での他者批判</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種を進めていくのは賛成だが、変異株の出現を招いているのはワクチンではないのか？</li> <li>・臨床試験などの期間が異例の短さで接種が開始されたが、効力や副反応に関するデータのサンプルが少ない中でどこまでワクチンに期待しながら新型コロナウイルスに対処していくのか</li> </ul>
記録の電子化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認書類の電子化も視野。紙ならなくすので</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接種済み証の電子化</li> <li>・ココア、周りで誰も使っていない、濃厚接触者になった時も通知はなかったことから、接種済み証の電子化は難しいのでは</li> </ul>	

# ワクチン・検査パッケージをめぐる市民的論点 3 / 4

論 点	よいと思うこと、期待されること	よくないと思うこと、心配されること	よくわからないこと、疑問に思うこと
医療リソースの消費		<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入することで、一時的に検査業務等に従事している看護師さんが病院に復帰しない。</li> </ul>	
制度の名称		<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前がわかりにくい。普通にワクチンパスポートで良いのでは？</li> <li>・やっていることは、結局パスポートと同じ</li> </ul>	
制度の運用		<ul style="list-style-type: none"> <li>・変異株による無効化や取得し直しを懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントなどを行う際のルール化の基準</li> <li>・この制度が実際に行われた場合、持っていない人への影響</li> <li>・ルールを守らない経営者、団体などに罰則などの強制力がある？</li> <li>・ワクチン検査パッケージの基準を更新する時、混乱しないか（有効時期の更新、新型コロナへの対応、活発しすぎた行動をする人への対応、うまくいかなかった時、即状況を見ながら改善できるか）</li> </ul>
実施主体			<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこがやるのか（検査機関はどこか）</li> <li>・運用する際のの主導はどこになるのか？</li> <li>・パスポートを必要とする場所は、許可をもらってそうするのか</li> </ul>
個人情報の保護			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の管理方法</li> <li>・電子化したときの危険性はないか</li> <li>・電子化する場合の業者の選定方法。</li> </ul>
PCR検査			<ul style="list-style-type: none"> <li>・pcrけんさの妥当な検査料金は一体いくらなのか？</li> <li>・株が変異して行った時もpcr検査は有効なのか？</li> <li>・ワクチンに比べて検査にかかる費用や人員が少ないのは、なぜなのか</li> <li>・PCR検査の方法も今だによくわからない</li> </ul>
申請方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請方法について。</li> <li>・身分証明との兼ね合いは？</li> <li>・PCRは72時間以内、抗原定性検査は24時間以内という限られた時間の中で、どのような手段で申請や発行手続きを行うのか</li> </ul>
提示方法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンパスポートをする時に紙なのか、韓国のように毎回、お店の入り口でバーコードなどで確認するシステムを導入するのか？</li> <li>・ワクチンした人としてない人をどのように分けるのか？</li> </ul>

# ワクチン・検査パッケージをめぐる市民的論点 4 / 4

論 点	よいと思うこと、期待されること	よくないと思うこと、心配されること	よくわからないこと、疑問に思うこと
有効期間			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンの有効期間との関係は</li> <li>・ワクチン・検査パッケージ取得後に感染した場合は無効化するのか</li> </ul>
私権の制限			<ul style="list-style-type: none"> <li>・私権制限とのバランス</li> </ul>
今後の見通し			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン検査パッケージはいつまで続くのか？感染状況がどのようなことになれば終わるのか？</li> <li>・いつまでやるのか</li> </ul>

# 資料

国民的な議論  
のための

情報提供資料

# 新型コロナウイルス感染症に関する ワクチン・検査パッケージについて

2021 10 03

さくり

## ワクチン・検査パッケージ

新型コロナウイルス感染症対策分科会が提案した、

ワクチン接種歴及びPCR等の検査結果をもとに、

個人が他者に二次感染させるリスクが低いことを示す仕組み

## 留意点

自らが感染しないこと、誰かにうつさないさせないこと

の完全な保証にはならない。

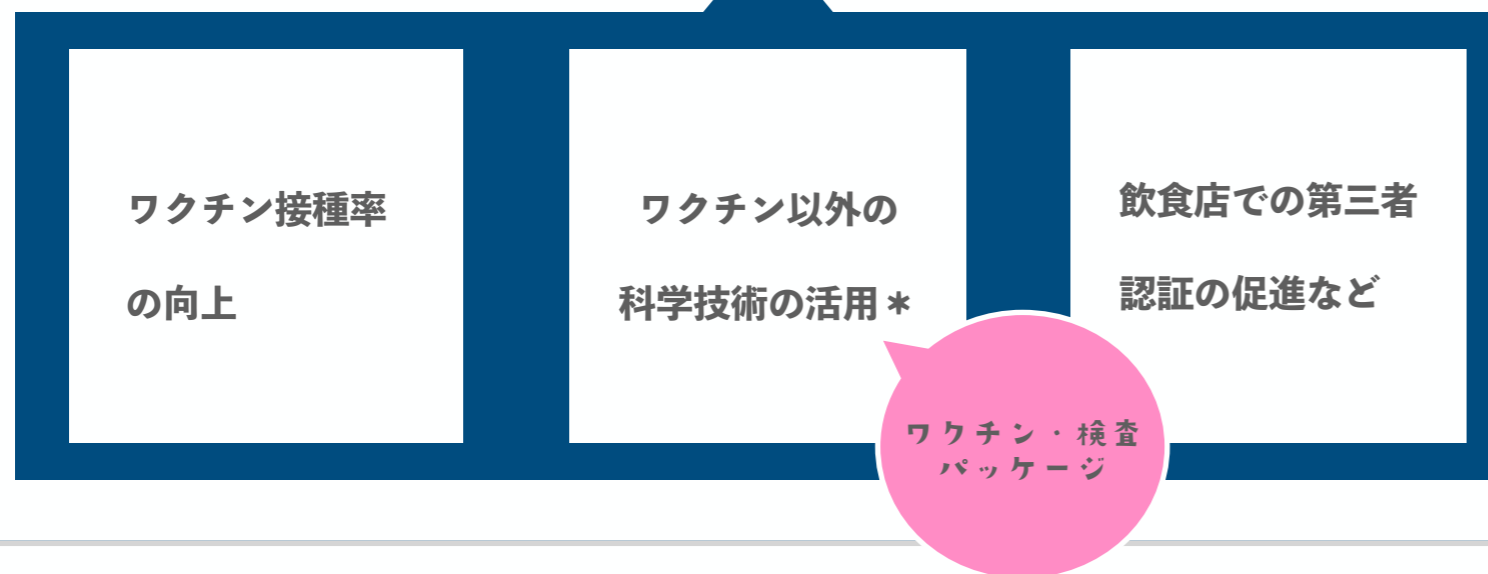
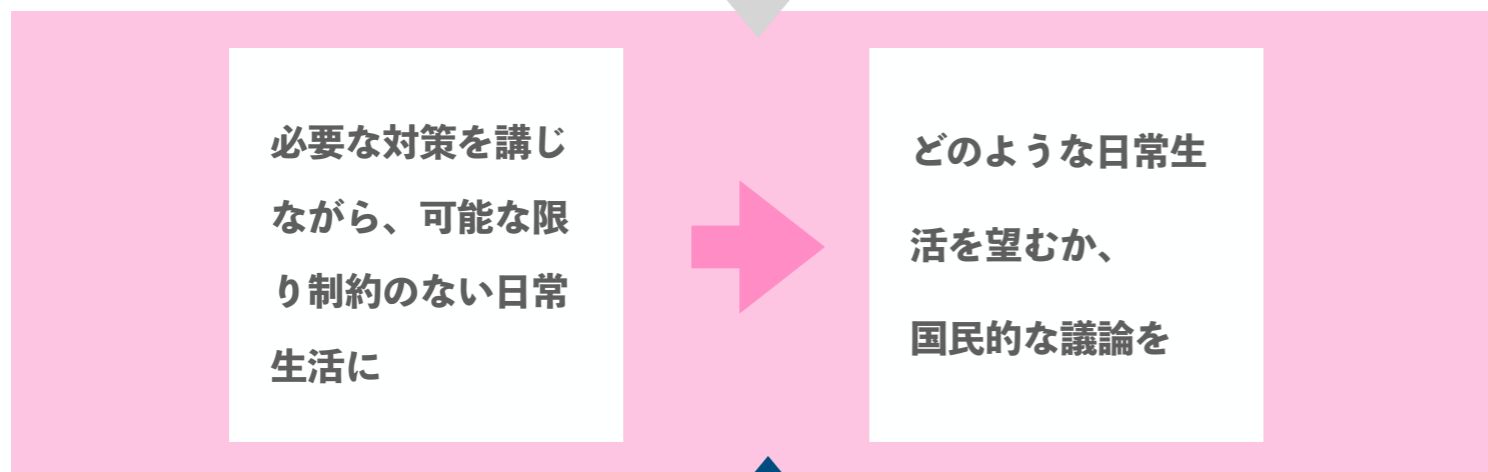
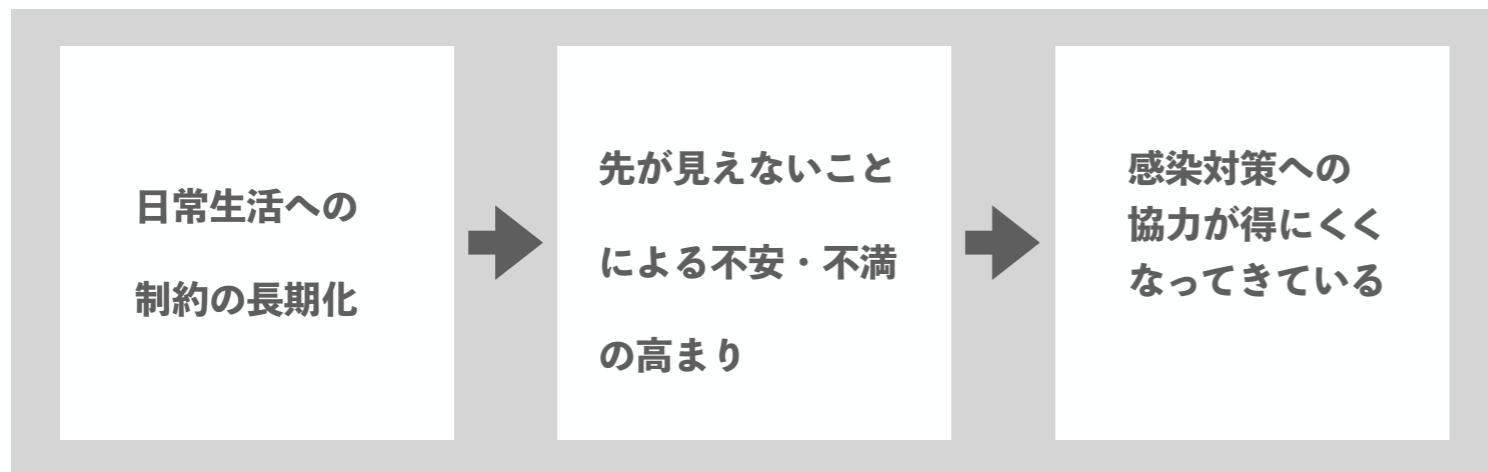
## ワクチン・検査パッケージ

とは

さくり

感染を広げるリスクが  
ゼロではないが、  
低いことを示すしくみ

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？（令和3年9月3日（金））」（新型コロナウイルス感染症対策分科会）を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。



# ワクチン・検査パッケージ が提案された背景



\*ワクチン・検査パッケージのほか、健康観察アプリや抗原定性検査(検査キット)、二酸化炭素濃度測定器(CO2モニター)、二次元バーコード(QRコード)、下水サーベイランス、積極的疫学調査、中和抗体治療など

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？(令和3年9月3日(金))」(新型コロナウイルス感染症対策分科会)、「ワクチン接種が進む中における日常生活回復に向けた考え方(令和3年9月9日)」(新型コロナウイルス感染症対策本部)を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。



## 利用目的

ワクチン・検査パッケージの活用により、日常生活や社会活動、経済活動などに対する制限を緩和すること

## 導入時期

ほとんどの希望者がワクチン接種を終えた時期（たとえば11月頃）  
（野球、サッカーなどのプロスポーツ、観光などの分野で技術実証を予定）

## 適用範囲

適用する分野、活動の規模、条件といった適用の範囲は、今後の議論に委ねられている

## ルール

義務、要請、努力義務、任意といった適用に関するルールは、今後の議論に委ねられている

## 費用負担

導入、運営にかかる費用などを誰が負担するかは、今後の議論に委ねられている（検査費用には、基本的に公費投入はしない）

# ワクチン・検査パッケージ の概要

さくり

国民的議論と技術実証を  
通じて細部を設計

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？（令和3年9月3日（金））」（新型コロナウイルス感染症対策分科会）、「ワクチン接種が進む中における日常生活回復に向けた考え方（令和3年9月9日）」（新型コロナウイルス感染症対策本部）を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。

## 基本的な感染対策と段階的な制限の緩和

ワクチン・検査パッケージを適用したとしても、マスク着用などの基本的な感染対策を当分継続しつつ、行動制限の緩和は段階的に状況に応じて進めること

### 適用すべき場面・活動

感染リスクが高い場面・活動やクラスターが発生した際の重症者の発生や地理的なインパクトが大きい場面・活動に適用すべきこと

### 国や自治体と事業者との対話

国や自治体を利用する場合には、事業者などの意見も聞いた上で適用すること

### 技術実証の活用

イベントなどでの適用にあたっては技術実証も活用すること

## ワクチン・検査パッケージの適用に関する考え方

さくり

段階的、インパクト、対話、技術実証

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？（令和3年9月3日（金）」（新型コロナウイルス感染症対策分科会）を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。

## 感染によるインパクトが大きい場面・活動の例

- ・医療機関や高齢者施設、障害者施設への入院・入所及び入院患者・施設利用者との面会・医療・介護・福祉関係等の職場への出勤
- ・県境を越える出張や旅行
- ・全国から人が集まるような大規模イベント
- ・感染拡大時に自粛してきた大学での対面授業
- ・部活動における感染リスクの高い活動

## その他の場面・活動の例

- ・同窓会等の久しぶりの人々と接触するような大人数での会食・宴会
- ・冠婚葬祭や入学式、卒業式後の宴会

## 適用すべきか否か検討すべき場面・活動の例

- ・百貨店等の大規模商業施設やカラオケなどでの従業員
- ・飲食店

## 適用すべきではない場面・活動の例

- ・参加機会を担保していく必要がある、修学旅行や入学試験、選挙・投票、小中学校の対面授業等

## ワクチン・検査パッケージ の適用例

さくり

適用しない場合は、  
基本的な感染防止策  
で

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？（令和3年9月3日（金）」（新型コロナウイルス感染症対策分科会）を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。

## ワクチン接種歴の確認（例）

### 確認書類（電子化も視野に）

- ・接種済証
- ・接種記録書（職域接種などで、接種券を持たずに接種を受けた場合）
- ・海外での接種者については、その国で発行された接種済証

### 有効期間

- ・ワクチンを2回接種後、2週間経過している場合
- ・時間経過による感染予防効果の低減も考慮して、最後のワクチン接種後から一定期間のみ

## 検査結果の確認（例）

### 確認書類

- ・PCR検査や抗原定量検査等又は抗原定性検査を医療機関や精度管理を行っている民間検査機関で受け、検体採取日時等が記載された検査結果証明書
- ・ワクチン・検査パッケージを活用する現場で検査を実施した場合には、検査結果証明書を発行せず、検査の結果を以って確認
- ・検査として抗体検査を活用することが可能か否かについては要検討

### 有効期間

- ・PCRは72時間以内、抗原定性検査は24時間以内の検査結果が有効

## ワクチン接種歴・検査結果 の確認方法

さくり

何を提示するか、  
いつまで有効か

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？（令和3年9月3日（金）」（新型コロナウイルス感染症対策分科会）、「ワクチン接種が進む中における日常生活回復に向けた考え方（令和3年9月9日）」（新型コロナウイルス感染症対策本部）を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。

## 技術実証例1 飲食店、ライブハウス・小劇場等

- 対象** ・ 第三者認証を取得している飲食店  
・ 感染対策をしっかりと講じているライブハウス・小劇場等
- 内容** ・ ワクチン接種歴の確認や事前の検査のオペレーション等  
・ 保健所業務の支援に資する入店者・入場者リストの作成、換気状態の計測等の技術の実効性等  
・ アンケート調査、フォローアップ調査
- 条件** ・ 「4人以下」の人数制限や営業時間等の制限を緩和

## 技術実証例2 大規模イベント

- 対象** ・ 感染対策をしっかりと講じているスポーツ、コンサート等のイベント
- 内容** ・ ワクチン接種歴の確認や事前の検査のオペレーション等  
・ 保健所業務の支援に資する入店者・入場者リストの作成、換気状態の計測、マスク着用率や大声の把握、人の密集を感知・共有する技術、直行・直帰(人流の変化)を観測する技術等  
・ アンケート調査、フォローアップ調査
- 条件** ・ 入場の制限を緩和

# ワクチン・検査パッケージ の技術実証

さくり

内閣官房が、関係府省庁、  
地方自治体と連携して実施  
予定

出典「ワクチン・検査パッケージ」に関する技術実証第一弾の候補案件を公表します（令和3年9月30日（金））」（内閣官房）を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。

## ワクチンの効果

- 1 感染しても、重症化すること、死亡することを防ぐ
- 2 感染しても、一定程度、症状が現われることを防ぐ
- 3 重症化を防ぐ効果よりは弱いですが、一定程度、自分が感染すること、誰かにうつすことを防ぐ

(デルタ株は、従来株に比べ、その効果は低いと考えられる。)

## ワクチンの限界

- 1 デルタ株が主流になった今も重症化を防ぐ効果はあるが完全ではない
- 2 ワクチンを接種しても、自分が感染する可能性、誰かにうつす可能性はある
- 3 ワクチンによって得られた免疫は、数ヶ月で徐々に弱まっていく可能性もある(追加接種についての議論が必要)

## ワクチンの効果と限界

(2021年9月3日現在)

さくり

希望者全員が接種しても、  
「社会全体が守られるという  
意味での集団免疫の獲得  
は困難」(分科会)

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？(令和3年9月3日(金))」(新型コロナウイルス感染症対策分科会)を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。

## mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチン、DNAワクチン、ウイルスベクターワクチンのなかま

**主な構成物** ウイルスを構成するタンパク質の遺伝情報を持つ分子

**特徴** 遺伝情報をもとに、体内でウイルスのタンパク質を作り、そのタンパク質に対する抗体が作られることで免疫を獲得

**代表例** 新型コロナウイルスの表面にあるタンパク質に対するワクチンが国内外で承認を受け、日本でも接種が開始

## 生ワクチンのなかま

**主な構成物** 病原性を弱めた病原体

**特徴** その病気に自然にかかった場合とほぼ同じ免疫力がつくことが期待

**副反応** 軽度で済むことが多いが、その病気にかかったような症状も

**代表例** MRワクチン（M：麻しん、R：風しん）、水痘（みずぼうそう）ワクチン、BCGワクチン（結核）、おたふくかぜワクチンなど

## 不活化ワクチン、組換えタンパクワクチンのなかま

**主な構成物** 感染力をなくした病原体や、病原体を構成するタンパク質

**特徴** 1回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持できないため、一般に複数回の接種が必要

**代表例** DPT-IPV：四種混合ワクチン（D：ジフテリア・P：百日せき・T：破傷風・IPV：不活化ポリオ）、DT：二種混合ワクチン（D：ジフテリア・T：破傷風）、日本脳炎ワクチン、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、肺炎球菌ワクチン、ヒトパピローマウイルスワクチンなど

## ワクチンの種類

さくり

ファイザー／モデルナ  
→ mRNAワクチン

アストラゼネカ  
→ ウイルスベクターワクチン

# ワクチン接種率

前提とされたシナリオ（2021年9月3日時点）＊1

	感染を一定水準に抑えるための対策	20-30代	40-50代	60代以上
シナリオA 理想的な接種率	マスク、三密回避など	75%	80%	90%
シナリオB 努力により到達しうる接種率	会食の人数制限、テレワークなどが必要 緊急事態宣言等の「強い対策」も	60%	70%	85%
シナリオC 避けたい接種率		45%	60%	80%

年代別接種状況（2021年9月27日現在）＊2

	12-19歳	20代	30代	40代	50代	60-64歳	65-69歳	70代	80代	90代	100歳以上
1回以上接種	42%	51%	56%	66%	77%	83%	87%	92%	94%	92%	86%
2回以上接種	21%	33%	36%	47%	63%	77%	85%	91%	92%	90%	83%

ワクチン・検査パッケージの  
前提となるワクチン接種率と  
現状

さくり

ワクチン接種率によって、  
必要な対策が変化する

出典 ＊1 「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？（令和3年9月3日（金））」（新型コロナウイルス感染症対策分科会）

シミュレーションの仮定 基本再生産数=5、ワクチンの感染予防効果=70%、ブレークスルー感染を考慮。

新たな変異株の出現、ワクチン効果の減弱、気温の低下等の要因は考慮せず。

＊2 首相官邸ホームページ 新型コロナワクチンについて <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html>



	PCR検査	抗原定性検査	抗原定量検査
調べるもの	ウイルスを特徴づける 遺伝子配列	ウイルスを特徴づける たんぱく質（抗原）	ウイルスを特徴づける たんぱく質（抗原）
使用検体	唾液等	鼻腔ぬぐい等	唾液等
精度	高い	体内ウイルス量が多い場合には高い	高い
特徴	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる	検出には、一定以上のウイルス量が必要	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる
無症状者への使用	使用可	推奨されていない	使用可
検査体制	機器等必要	キット等	機器等必要
判定時間	1時間	15－30分	30分
費用	3千円－数万円	数千円 (別途証明書発行費用等が必要)	数千円－1万円
有効期間	72時間	24時間	72時間

## 検査の種類と特徴

さくり

検査結果が陰性でも感染している可能性があるため、基本的な感染防止策の徹底を継続

出典 ワクチン接種が進む中における日常生活回復に向けた考え方（令和3年9月9日）」（新型コロナウイルス感染症対策本部）、厚生労働省ホームページ 新型コロナウイルス感染症に関する検査について（[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00132.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00132.html)）を元に、科学コミュニケーション研究所にて作成。

\*抗体検査について 国内で様々な抗体検査キットが研究用試薬として市場に流通してるが、期待されるような精度が発揮できない可能性があり要注意。また、現在、日本国内で医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）上の体外診断用医薬品として承認を得た抗体検査はない。WHOは、抗体検査について、診断を目的として単独で用いることは推奨されず、疫学調査等で活用できる可能性を示唆している。

## ・導入

### アメリカ（ニューヨーク州）

ニューヨーク市においてキー・トゥ・ニューヨークシティ・パス（Key to NYC Pass）を導入

### フランス

カフェ、レストラン、ショッピングセンター、病院、飛行機、電車、長距離バスの利用時にパス・サニテール提示を義務化

### ドイツ

ワクチン接種者、快復者、検査陰性者（3G）にのみ病院、高齢者施設、飲食店での屋内飲食、屋内イベント、宿泊等を認める措置を各州が導入

## ・不導入

### アメリカ（連邦レベル）

市民のプライバシーや人権を守るため、ワクチン接種完了証明書を連邦レベルでは導入しないと発表。州レベルでの対応は分かれている。

### アメリカ（フロリダ州）

新型コロナワクチンの接種証明の提示を企業やレストランなどが客に求めた場合、最大で5000ドルの罰金を科すと発表。

### イギリス

ワクチン接種率が高いこと（16歳以上の81%が2回のワクチン接種）、業界や与党・保守党内の一部議員が反対したこと、日常的な活動のために、書類を見せなければならないという考えは好ましくないことなどから導入を見送り。

## 諸外国の状況

さくり

感染症対策、行動制限の緩和、プライバシーや人権のバランス

出典「ワクチン接種が進む中における日常生活回復に向けた考え方（令和3年9月9日）」（新型コロナウイルス感染症対策本部）、日本経済新聞ホームページ「英、ワクチン証明導入せず 与党内や業界から反発（2021年9月14日）」（<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGR13CIP0T10C21A9000000/>）などを元に科学コミュニケーション研究所にて作成。

## ワクチンを接種しない人／できない人の不利益をどう考えるか

「我が国では、新型コロナワクチンの接種については予防接種法により努力義務とされているが、検査とともにワクチン接種は本人の意思に基づき行われている。ただし、ワクチンが社会防衛として行われるという観点から、例えば、感染リスクの高い職場での活用など、**接種していない人が一定の制約を受けるという不利益をどこまで社会的に甘受すべきか**を、諸外国の事例等も踏まえ、議論する必要がある。」

## 国民的議論→民間の創意工夫→国・自治体の後押し

「“ワクチン・検査パッケージ”は、**国民的な議論**を通して得られた考え方に基づき、基本的には、**自発的な民間の創意工夫**を加えて具体的に活用されることが期待される。**国及び自治体**は、検査体制の強化など、その**民間の取り組み**を**後押し**すべきである。」

## 社会の分断を回避するための工夫：「パスポート」と呼ばない

“ワクチンパスポート”という言葉が海外渡航に関して使用されているが、国内でこの言葉を用いると、“パスポート”という言葉がそれを保持しない人が社会活動に参加できないことを想起させ、**社会の分断に繋がる懸念**がある。したがって、**国内では“ワクチンパスポート”という言葉は使用すべきではない**と考える。」

## 個人情報保護

「ワクチン接種歴等の利用にあたっては、**個人情報保護**に注意した議論が必要である。」

## ワクチン・検査パッケージ に関する留意点

さくり

分科会が示した留意点

出典「ワクチン接種が進む中で日常生活はどのように変わり得るのか？（令和3年9月3日（金））」（新型コロナウイルス感染症対策分科会）を元に科学コミュニケーション研究所にて作成。